

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(都田南小)学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 校長から「継承と挑戦」をキャッチフレーズに、丁寧に基本方針が示された。基本方針を具現化するための「夢育やらまいか事業」を含め、熟議を重ねることで、共通理解が深まった。
- 「開拓者の思い」「都田南小を創った人の思い」は都田南小の原点である。これらを変わず継承したい。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 授業支援・読み聞かせ・花壇整備・学校行事ボランティアは、学校支援コーディネーターからの報告をもとに熟議を通し、定着した活動になってきている。
- 各委員が所属する組織や団体の特色を生かせるように熟議を重ね、支援活動に結びつけることができた。
- 様々な観点から話し合いができた。そして、実際の支援活動につながるようなとても有益な熟議を進めることができた。
- 地域連携アプリ「TEAMin」を断念せざるを得なかったことは、残念であった。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- 学校支援コーディネーターにより、学校と地域とのつながりが深まっている。しかし、支援活動に参加してくれる人が固定化している。有効な周知方法の模索やボランティア募集方法を確認し、ボランティアの裾野を広げたい。
- 保護者やPTA、NPO、自治体、図書館との連携は深まってきたが、民間企業や大学との連携も進めていきたい。また、中学校区での活動の連携をより深められれば子供たちの成長につなげていけると思う。
- 学校支援コーディネーターを中心に、学校での困りごと・必要な人材などの要望を継続的に取りまとめ、熟議を通してより一層支援を進めていきたい。

<評価項目4> (協議会の取組や学校運営に資する活動について、教職員、児童・生徒、保護者、地域に周知することができたか。)

- 学校支援コーディネーターを中心に広報・連携を強力に押し進めることができた。図書館・外部機関とも積極的に連携し、支援につなげることができた。
- 広報誌(CSだより)は、分かりやすく作成されており、ボランティア活動に対する意欲を高めるものとなった。
- 広報誌により保護者に対して活動を知ってもらうことはある程度できた。少しずつ、ボランティア協力者も増えてきている。地域へ向けての周知については、さらに努力が必要と感じる。
- 学校ホームページの形式が変更されることを機に、周知につながる方法を考えたい。